

- 総理の指示の下、行政改革推進会議の下に「**アジャイル型政策形成・評価**の在り方に関するワーキンググループ」設置。令和4年5月に提言を取りまとめ。

[提言のねらい]

- 「PDCAサイクルを回し、環境変化に対応しながら政策効果を上げることが追求する **ダイナミックなEBPM**」と
- 「経験のない課題について、考え得る最善の政策でチャレンジし、**トライ&エラーで精度を向上**」

行政の「**無謬性神話**」から脱却し、複雑かつ困難な社会課題に適時的確に対応できる、**より機動的で柔軟な行政への転換**

- 上記を受けて、R5年度から行政事業レビューと政策評価制度が大きく変化。

• 行政事業レビューシートの見直し

- ▶ EBPMに係る要素の充実、予算編成プロセスでの活用

• 政策評価の見直し（政策評価に関する基本方針の一部変更（令和5年3月28日閣議決定）等）

- ▶ 画一的・統一的なプロセスを見直し
- ▶ 実際の政策のプロセスに役立つ評価へ（**政策効果の把握・分析機能の強化、意思決定過程での活用促進**）
- ▶ レビューシートや審議会資料を活用可能に

文部科学省の対応について

令和5年4月から、

【政策評価】

○画一的網羅的だった評価から、実際の政策の立案プロセスに合わせた評価へ。
時期・方法・対象は各省の判断に委ねられる。
⇒作業負担を減らしつつ、政策評価の実効性を向上。

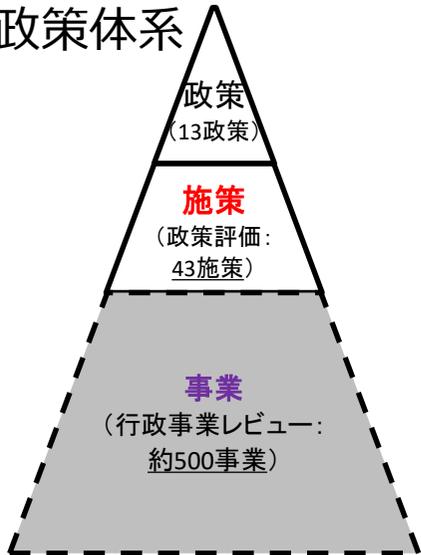
【行政事業レビュー】

○ロジックモデル的要素を充実させ、予算編成プロセスのプラットフォームへ。

アクティビティ	アウトプット	短期アウトカム	中期アウトカム	長期アウトカム
---------	--------	---------	---------	---------

⇒事業の上位の目的との整理が必要。

政策体系



【政策評価の新制度】

☆政策体系（作成必須）

- ・達成目標・測定指標を充実させて、事業・施策・政策のつながりを再整理。
- ・政策立案プロセスで行われる政策・施策レベルの評価（例：各種基本計画のフォローアップ等）、レビューとの接続を強化。【毎年実施】

☆評価書（適切な資料で代替可能）

- ・「実際の政策立案プロセスに合わせる」考え方を踏まえ、各種基本計画フォローアップ資料等を活用するなど、**政策分野ごとに最も適切な方法を判断。**

【行政事業レビューの新制度】

☆EBPMの取組

- ・全事業のレビューシートにEBPMの手法を適用し、政策体系等とより連動させることで、効果的な事業の立案・実行・評価・改善を図るとともに、これを予算編成プロセスで活用。